

味の素株式会社 理事 二宮くみ子先生を予定しております。詳しいプログラムにつきましてはホームページをご参照ください。

熊本から世界へ第一線の栄養研究情報を発信していきたいと希望しております。どうぞご理解、ご支援、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

学生の自主活動への支援

本九祭の開催

第二十回本九祭実行委員長
熊本大学医学部医学科三年 藤山 寛之

この度は熊本大学医学部の本九祭運営のため肥後医育振興会助成金を賜り、誠にありがとうございました。医学部学生を代表して深く感謝申し上げます。

私たち学生が日々の活動を通じ学んでいることを地域に向けて発信させて頂くことが、本九祭の主な目的です。それに加え、出店やイベントにより活気ある雰囲気をつくり、来場の方々とともに楽しみ、親睦を深めることを重視しております。

今年度のテーマは「K. M. Revolution」(Kumamoto Medical Revolution 熊本大学医学部革命)、サブタイトルは「限界への挑戦」でした。

昨今の世の中、当たり前のように平和を享受する中で安定性や調和ばかりが大切にされ、大学の活力ある雰囲気が変わっています。世間一般においても若者はおとなしい、草食系などとよく云われますね。では私たち医学部の学生はどうかと問うてみました。勉強のできる善良な人間というだけで満足していないでしょ

うか。法令遵守と勤勉さは医学生が抑えておくべき最低限のことですが、大切なのはこの最低ライン以上の魅力がどれだけあるかという事です。

社会をより良く変えていくためには先頭に立つ勇氣が必要です。考えの異なる他者を受け入れる寛容さが必要です。さらには周囲を驚かせる発想力、笑わせるユーモアがあれば云うことありません。教科書の暗記や周囲の顔色を伺う姿勢も時には求められますが、そこに終始しては既存のものに埋没するだけです。

豊かな世の中、崇高な理想など持たずとも普通に生きていくことができます。こんな時代だからこそ私たち医学部の学生は「ノーマルでいい」という消極的姿勢を棄て、自分たちの手で大学をもっともっと面白くしたいと考えるのです。

本九祭は想像力を発揮する絶好の機会でした。今年度から新たにイメージキャラクターを作り、宣伝から当日のイベントまで幅広く大活躍してもらいました。スタンプラリーでは来場の方々に医学部関連の記念品をプレゼントさせて頂くことを企画し、形として後に残るようお願いを込めております。

軽音ライブや吉本興業の芸人によるお笑いライブなど、ステージイベントも大いに盛り上がりました。各部活による店舗では来場の方々と学生との交流が数多くあり、アカデミック企画では発生医学研究所の主導のもと医学系の展示が大人気だったそうです。参加者全員があらゆる場面で「限界への挑戦」に取り組み、例年にはない私たちの情熱を地域社会に向けてお伝え出来たことと思います。

開催にあたり、ご支援・ご指導いただいた関係者の方々、地域社会の皆様方、誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

「蕃滋祭」の開催にあたって

蕃滋祭実行委員長
熊本大学薬学部薬学科三回生 原田 実穂

この度は熊本大学薬学部の蕃滋祭運営のため肥後医育振興会助成金を賜り、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。肥後医育振興会のお力添えにより、私たちは、平成二十五年十一月二日(土)、三日(日)に大江地区におきまして薬学部蕃滋祭を開催しました。薬学部学生一同を代表してここにご報告いたしますとともに、心から感謝申し上げます。

蕃滋祭は、薬学部の近隣に住んでおられる地域の皆様をはじめ、卒業生の方々に対して、現在の熊本大学薬学部の校風を体感していただき、薬学に少しも興味を持っていただくために、毎年開催しております。

昨年は一昨年に引き続き、充実した薬学展を開催できるようにと、薬学展改め「蕃滋祭」という名称で、例年以上に力を注いで行いました。本年は、さらに充実した薬学展を開催できるように、そしてさらなる発展を願って引き続き「蕃滋祭」という名称で開催しました。「蕃滋」とは、熊本大学薬学部の基となる薬園「蕃滋園」を由来としています。「蕃滋園」という名は、福利厚生施設「蕃滋館」として、今もなお熊薬で受け継がれており、施設内には学生食堂、購買所などが設けられ、学生及び教職員が利用する憩いの場となっております。

今年「Tyoyaku」(跳躍、頂葉)をテーマとし、これから多くの熊本大学薬学部生が薬学の分野で活躍することを願ってこのテーマに決定しました。

今年も様々な企画を行ったり、模擬店を出店しました。公開実験としては、毎年人気な火傷によく効く紫雲膏の作成や

電気泳動など、薬学部ならではの企画を行いました。模擬授業はともユニークな先生が行ってくださったため、参加者の方々にも有意義な時間が提供できたかと思えます。さらに模擬薬局では、実際に地域の方々に薬局ではどのようなことをしているのか体験してもらい、外部の方々も少しも薬学に興味を持っていただけでも、薬学部全体でいろいろ企画を体験できるいい機会だったと思います。また、模擬店でも数多く出店させて頂いた、地域交流や学生同士の絆をより深く強いものにできたいと思います。今年度は薬学部内でホームカミングデーを行い、熊大OBの方々から大学の近況に触れていただき、懐かしい学友と再会、交流、親睦を深めていただきました。今年度は薬学部体育館改修工事のため、宮本記念館コンベンションホールを使用させて頂いた、軽音楽によるライブをはじめ、ミスコンやジュノンコンテスト、女装コンテストなどさまざまなステージ企画も実施しました。

今回の蕃滋祭を通して多くの方々に熊本大学薬学部と薬学についてより深いご理解とご支援を受けたと感じております。また、運営にあたって学生が切磋琢磨し、向上心と愛校心を培うことができました。このような蕃滋祭を開催できるのも偏に薬学部を支援してくださる皆様のおかげだという事を常に心に留め、これからもいっそう薬学部と医療全体の活性化のために学部生一同一丸となつて邁進していきたいと思えます。また、地域と医療の架け橋となるべく、これからも蕃滋祭を通して地域の皆様に少しでも薬学部を知っていただけるように頑張りたいと思えます。

最後に、肥後医育振興会と熊本の医療の益々の発展を祈念してご報告とさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。